



2024年3月期 第3四半期（2023年4月～12月） 決算説明資料



株式会社MCJ

2024年2月5日

2024年3月期 第3四半期（4月～12月）における主なトピックス

業績サマリー

□ 営業利益を含む各利益は第3四半期としての過去最高を更新

- 第3四半期会計期間（10月～12月）及び第3四半期累計期間（4月～12月）共に各利益は過去最高を更新
- 第3四半期会計期間の営業利益は前年同期比35%を超える増益

業績に係る
トピック

□ パソコン関連事業は海外事業が業績を牽引

- 国内パソコン関連事業は急激な円安傾向等に伴う原材料・部材価格高騰や軟調な国内PC需要を受け、前年同期比減収減益傾向が継続も高い売上総利益率を維持
- 海外パソコン関連事業は好調に推移。期初予想時点では減収減益想定 of 欧州モニタ事業（iiyama）は、想定通り前年同期比減収も各利益は第3四半期としての過去最高を達成。東南アジア事業（R-Logic）も前年同期比増収増益し、第3四半期としての過去最高の営業利益を達成

□ 総合エンターテインメント事業は営業黒字が継続

- コロナ禍における構造改革や営業施策の結果、前年同期比増収増益
 - セグメントとしての第3四半期累計期間は過去最高の営業利益となる

その他
トピックス

□ 好調な利益面での業績推移を受け2024年3月期通期業績予想を上方修正

- 通期営業利益は167億円を見込み過去最高を更新の予想

連結業績サマリー (1/2)

M

C
J

M

C
J□ 第3四半期累計期間として**各利益は過去最高**を更新4月～12月
累計期間

- 売上高： 1,347億円 (前年同期比 4.9%減)
- 営業利益： 130億円 (同 23.7%増)
 - 売上高は想定通り前年同期比減収も利益重視施策の強化・継続を通じて前年同期比増益
 - 売上総利益が率・額ともに過去最高を更新し、営業増益を牽引

□ 第3四半期会計期間としても**各利益は過去最高**を更新10月～12月
会計期間

- 売上高： 462億円 (前年同期比 0.2%減)
- 営業利益： 44億円 (同 35.2%増)
 - PC関連事業は海外事業（欧州、東南アジア）の好調が業績を牽引
 - 総合エンターテインメント事業も前年同期比増収増益にて業績の回復及び拡大傾向が継続

2024年
3月期
第3四半期

実績

連結業績サマリー (2/2)

売上高は減収傾向継続も、事業環境を鑑みた利益重視スタンスを継続し、各利益共に増益基調が継続。第3四半期として過去最高の営業利益となる

(百万円)	会計期間 (10月~12月)			累計期間 (4月~12月)		
	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減率	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減率
売上高	46,378	46,299	△0.2%	141,626	134,740	△4.9%
営業利益	3,328	4,498	35.2%	10,578	13,081	23.7%
経常利益	3,012	4,721	56.7%	10,404	13,249	27.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,094	3,405	62.5%	7,285	9,632	32.2%

- 国内PC事業は軟調なユーザー需要の継続や過度な円安基調により厳しい事業環境が継続も、海外PC事業及び総合エンターテインメント事業の好調が継続し、第3四半期会計期間では35%を超える営業増益を達成

第3四半期（4月～12月）連結損益計算書

前年同期比で**主要各社の利益率が上昇**
 第3四半期として**過去最高の売上総利益率を達成**。各利益も過去最高を更新

(百万円)	2023年3月期 第3四半期		2024年3月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	141,626	100.0%	134,740	100.0%	△ 6,886	△4.9%
売上原価	110,681	78.1%	100,656	74.7%	△ 10,025	△9.1%
売上総利益	30,945	21.9%	34,084	25.3%	3,138	10.1%
販売費 及び一般管理費	20,367	14.4%	21,002	15.6%	635	3.1%
営業利益	10,578	7.5%	13,081	9.7%	2,503	23.7%
経常利益	10,404	7.3%	13,249	9.8%	2,845	27.3%
税金等調整前 当期純利益	10,396	7.3%	13,393	9.9%	2,996	28.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,285	5.1%	9,632	7.1%	2,347	32.2%

売上<利益重視スタンスを継続し減収

マウス、ユニットコム、iiyama他が前年同期比で売上総利益率上昇。
過去最高の売上総利益率となる

人件費は大幅増も事業環境を鑑みて広告宣伝費などを抑制。全体費用をコントロール

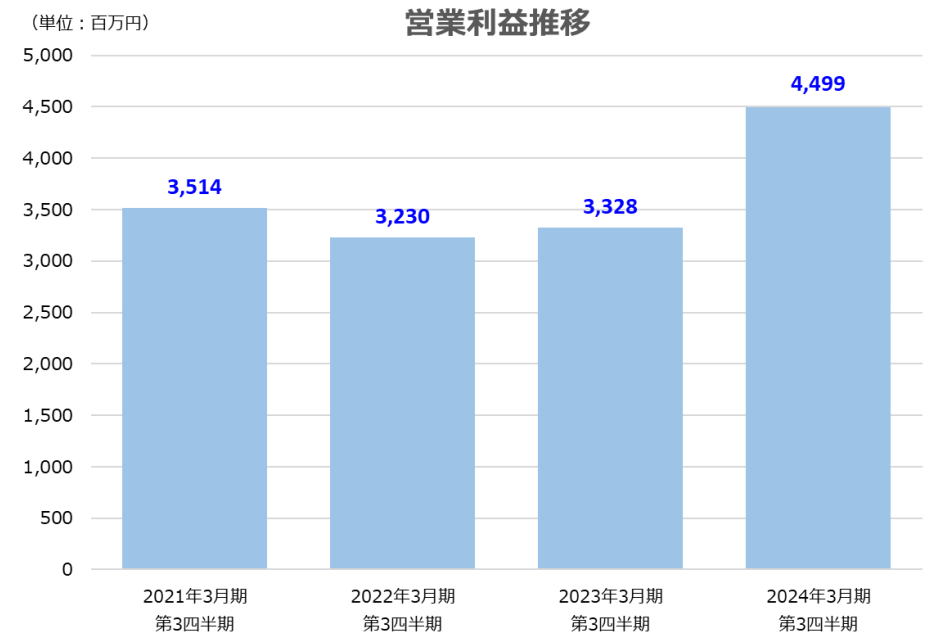
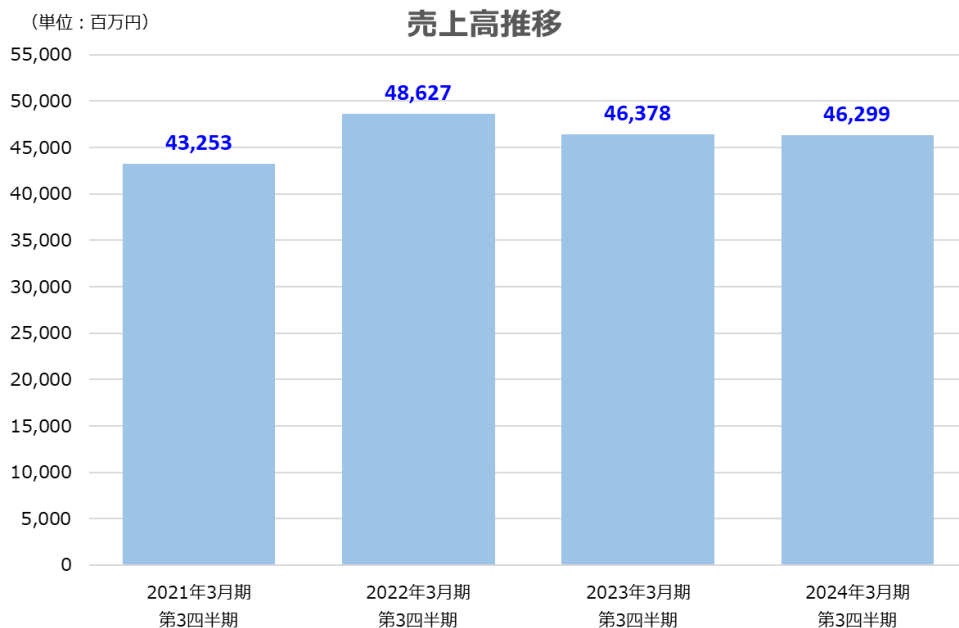
高い売上総利益率の確保と販管費のコントロールにより、営業利益は3Qとして過去最高を達成

第3四半期（10月～12月）連結業績推移グラフ

厳しい事業環境にもかかわらず売上高は高水準を維持
利益重視スタンスを継続し、営業利益は大幅増益。過去最高を更新

「売上<利益」の施策継続により
前年同期比減収もほぼ同水準を維持

売上高は前年同期比でほぼ同水準も**主要各社の売上総利益率の向上**に加え、海外PC関連事業及び総合エンターテインメント事業の好調により、**過去最高の営業利益を達成**



第3四半期（4月～12月）期初通期連結業績予想に対する達成率

売上高は期初予想を若干下回り推移するも各利益は期初予想を大幅に上回り推移

(百万円)	期初通期連結業績予想に対する達成率			
	2024年3月期 第3四半期累計期間 実績	2024年3月期 期初通期予想	達成率	(参考)2023年3月期 第3四半期累計期間 実績
売上高	134,740	194,600	69.2%	141,626
営業利益	13,081	14,300	91.5%	10,578
経常利益	13,249	14,300	92.7%	10,404
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,632	10,100	95.4%	7,285

売上高は期初予想を若干下回り推移

各利益は海外PC関連事業と総合エンターテインメント事業が期初予想比大幅な増益となり、3Q実績時点で通期予想比で高い水準の達成率となる

2024年3月期通期業績予想を上方修正

《期初通期予想の対前年通期実績比》

(百万円)	前年度実績に対する期初予想比率		
	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 期初通期予想	対比率
売上高	191,076	194,600	101.8%
営業利益	14,318	14,300	99.9%
経常利益	13,935	14,300	102.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,603	10,100	105.2%

- 下半期にて国内PC事業の環境改善を見込む想定の下、下半期は前年同期比で増収増益を見込み、結果通期にて過去最高の売上高を想定
- 利益率上昇の一方で、人件費や各種コストの大幅増を想定し営業利益以下の各利益は前年同期比で同水準を想定

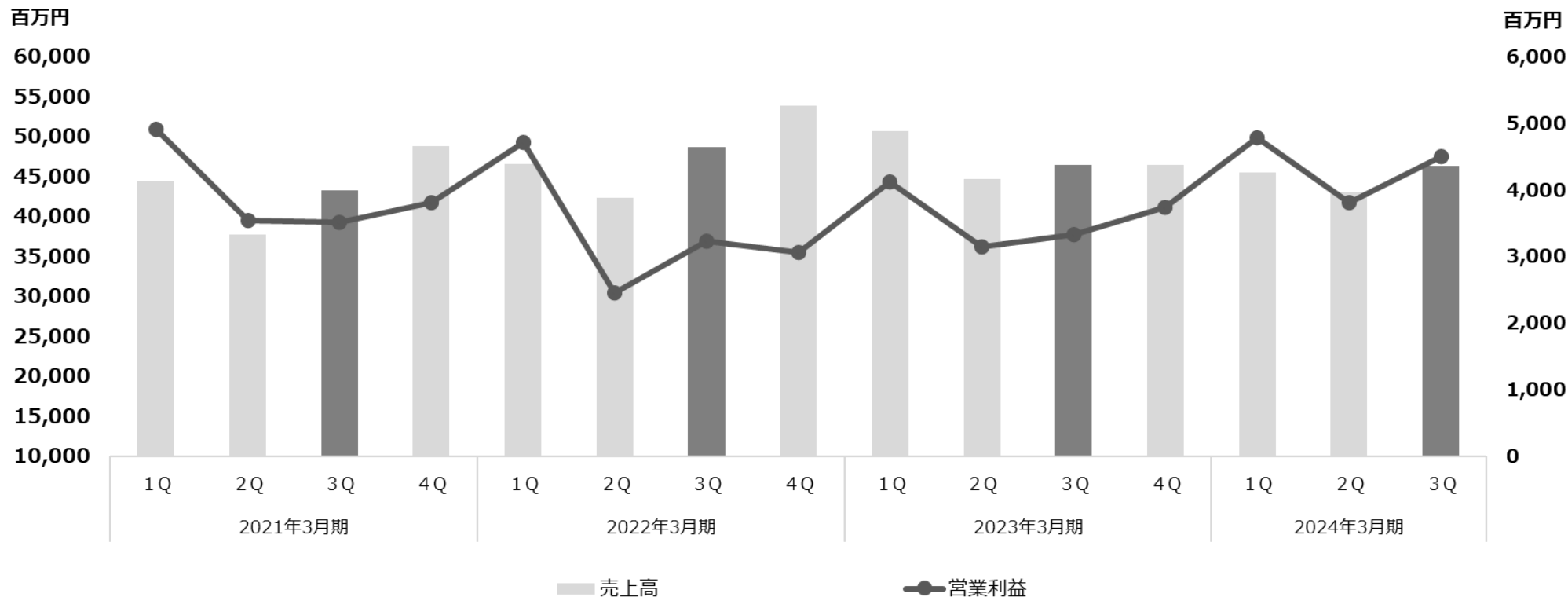
《今回上方修正後の通期業績予想》

(百万円)	前年度実績及び期初予想に対する修正予想比率				
	2024年3月期 修正通期予想	2023年3月期 通期実績	対比率	2024年3月期 期初通期予想	対比率
売上高	185,000	191,076	96.8%	194,600	95.1%
営業利益	16,700	14,318	116.6%	14,300	116.8%
経常利益	16,900	13,935	121.3%	14,300	118.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,900	9,603	123.9%	10,100	117.8%

- 国内PC事業環境は上半期同様に軟調継続の為、**売上<利益率重視**スタンスを強化・継続の結果、**売上予想を下方修正**
- 一方で、上記スタンスに加え、海外PC関連事業等の好調により、利益率及び利益額は期初予想を上回り推移した結果、**各利益の通期予想を上方修正**

第3四半期（10月～12月）連結業績推移

3Q売上高は前年同期比減収も3Qとしては高水準を維持
 営業利益は3Q過去最高更新のみならず、四半期利益としても高水準の44億円を達成



(百万円)	2021年3月期				2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	44,420	37,698	43,253	48,799	46,473	42,290	48,627	53,855	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945	46,299
営業利益	4,900	3,540	3,514	3,803	4,702	2,445	3,230	3,057	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807	4,498

セグメント情報 第3四半期 4月～12月実績

パソコン関連事業

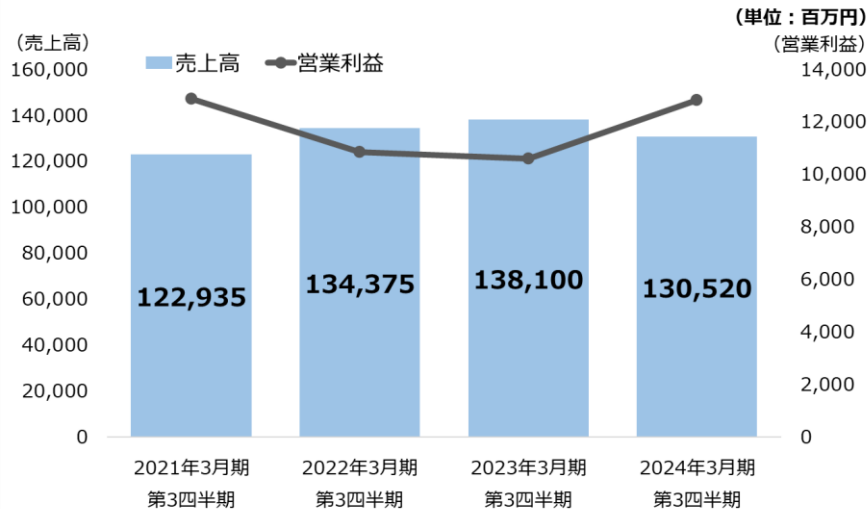


➤ **売上高 1,305億円（前年同期比 5.5%減）**

- 国内パソコン関連事業は、軟調な事業環境が継続。各社ともに前年同期比減収となる
- 海外パソコン関連事業（1月～9月）は、iiyamaが前年同期比減収も、R-Logicは増収継続

➤ **営業利益 128億円（同 20.9%増）**

- 国内パソコン関連事業は、上半期営業赤字計上のユニットコムが4月～12月累計で営業黒字転換を果たすなど徐々に回復の傾向
- 海外パソコン関連事業は、iiyama、R-Logicともに前年同期比で大幅増益し、過去最高益を更新

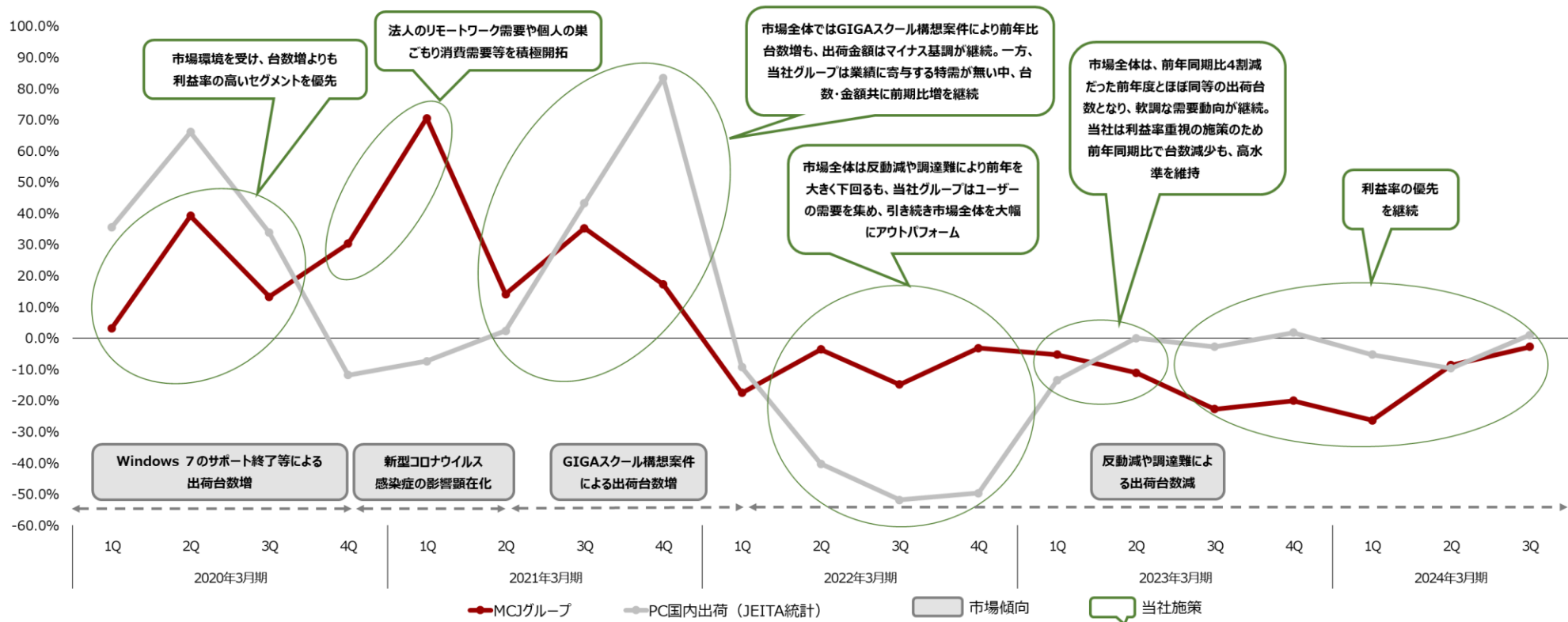


パソコン関連事業 (百万円)	2023年3月期 第3四半期		2024年3月期 第3四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	138,100	97.5%	130,520	96.9%	△ 7,580	△ 5.5%
営業利益	10,592	100.1%	12,808	97.9%	2,216	20.9%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

国内パソコン出荷台数増減率の推移

市場全体は特需の反動減や経済環境などにより、低調な需要動向が継続
 当社グループは事業環境を鑑みて【売上、出荷台数 < 利益】スタンスを継続



※ 上記グラフは、四半期（会計期間）ごとの出荷台数実績を前年同期と比較したものです。

セグメント情報 第3四半期 4月～12月実績

□ **総合エンターテインメント事業**：株式会社aprecio、株式会社MID
【ネットカフェ、24時間フィットネス、接骨院・整体院、ホテル運営事業】

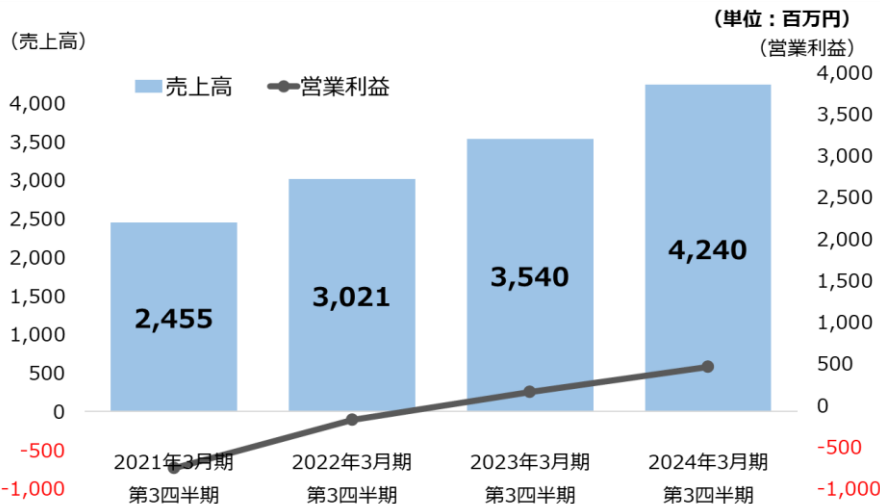


➤ **売上高 42億円（前年同期比 19.8%増）**

- コロナ禍における規制の撤廃等を受け、提供する各種サービスの利用人数が継続して上昇
- 主力のネットカフェ事業、24時間フィットネス事業を中心に**増収を達成**

➤ **営業利益 4.6億円（同 181.0%増）**

- **ネットカフェ事業の収益回復・拡大が継続**。注力事業である**24時間フィットネス事業も引き続き好調**
- コロナ禍に実施した構造改革の効果もあり、セグメントの**第3四半期として過去最高の営業利益を達成**



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2023年3月期 第3四半期		2024年3月期 第3四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	3,540	2.5%	4,240	3.1%	699	19.8%
営業利益	164	1.6%	461	3.5%	297	181.0%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

中期経営計画進捗サマリー

		目標値	実績
2024年 3月期 第3四半期 4月～12月	営業利益率	7%以上	<u>9.7%</u>
	ROIC	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	ROE	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	配当性向	30%以上	<u>47.3% (計画)※</u>
	DOE	4.5%程度	<u>通期にて開示予定</u>
	総還元性向	30～40%程度	<u>通期にて開示予定</u>
事業運営 方針	<p>□ 足元の事業環境や中計方針に則り以下方針にて着実な成長を狙う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【国内PC事業】：利益重視スタンスにて手堅く運営しつつも、将来の成長基盤強化に向けた各種施策を着実に実施 ● 【海外PC事業】：変わりつつある環境に臨機応変に適応し収益基盤強化 ● 【総合エンターテインメント事業】：伸ばせる事業へ注力。黒字化定着図る 		

※ 普通配当（配当性向30.7%）及び記念配当（配当性向16.6%）を合算した数値となります

株主還元① 配当金について

2024年3月期の配当金予想は、**過去最高益の達成による増配（普通配当）**、
及び**創業30周年を迎えての記念配当**を実施予定

	*1 実績					予想
	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月	2024年3月期
年間1株当たり 配当金	20円50銭	23円50銭	31円00銭	32円00銭	33円00銭	57円00銭
配当性向	30.2%	30.6%	30.5%	33.9%	33.9%	※ 47.3%

※ 普通配当（配当性向30.7%）及び記念配当（配当性向16.6%）を合算した数値となります

□ 2024年3月期1株当たりの予想期末配当金額は57円00銭と想定
（普通配当：37円00銭、記念配当：20円00銭）

» 前期比増配の継続：**11期連続での増配**を見込む

株主還元② 株主優待制度について

引き続き2024年3月期も株主優待制度を実施予定

①1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択 + ②

<商品一例>

ゲーミングデバイスセット / 21.5型液晶ディスプレイ
パソコン工房1万円商品券 / 米沢牛すきやき肉
うなぎ蒲焼 / アイスセット / 日本酒セット 等

※右記商品をご参考までに前期のものを掲載しております。
今期の商品とは一部異なる場合がございます。

②100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券
(500円×2枚)





Appendix



- 商号** : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)
- 設立** : 1998年8月
- 代表者** : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
代表取締役社長兼COO 安井 元康
- 資本金** : 3,868,102,900円
- 従業員数 (連結)** : 3,686人 ※うち臨時職員1,406人 (2023年3月末)
- 発行済株式数** : 101,774,700株 (同上)
- 証券コード** : 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）
の拡充

コンテンツ・サービス分野
への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はVB投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI



重要視するKPI	実績数値及び目標数値		
	2016年3月期実績	2022年3月期実績	中期経営計画期間における目標
営業利益率 <営業利益/売上高>	5.0%	7.0%	7%以上 連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
ROIC <NOPAT/事業性投下資本>	12.4%	19.0%	15%程度以上 資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定
ROE <当期純利益/期中平均株主資本>	13.0%	16.9%	
配当性向 <1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>	20.5%	33.9%	30%以上 下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
DOE <ROE×配当性向>	2.7%	5.7%	4.5%程度 成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定
総還元性向 <配当 + 自社株買>	20.5%	33.9%	30~40%程度 増配基調の維持を優先。株価水準等により自社株買を実施

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp

HP : www.mcj.jp

M

C

J

M

C

J

MCJ
HOLDING COMPANY